

2023年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/25

団体名	特定非営利活動法人しんしろドリーム荘	活動タイトル	プログラミング学習による非認知能力強化で子どもの生活困窮の連鎖を断つ事業	
<p align="center"><b>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</b></p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体が貧困家庭の子どもの学習支援を行う中、ある生活保護家庭の子どもから「なぜ努力しなければならないの？、家の人は働いていないけど何も困っていないよ。」と言われたことは衝撃でした。困窮者への直接的支援は必要ですが、ともすると過剰支援となり当事者の回復力を削いでしまうことがあるのではないかと感じたエピソードです。 そこで今回の助成事業のビジョンとしては、貧困家庭の子どもの回復意欲を高め、親亡き将来に向かって貧困の連鎖を断つことをめざします。 望ましい社会情勢は、このような貧困対策が不要な希望に満ちた社会となることです。</p>		<p>プログラミングを習う様子</p> 	
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体代表理事は、民生委員・児童委員、地域福祉計画策定委員、社会福祉協議会ボランティア連絡協議会会長を務めるなど、常日頃から行政機関と連携しており、その中で、当NPO法人の中心的活動分野である子どもの貧困対策は、各機関で努力するも実態は複雑化するばかりという印象を受けています。そこで、当団体は、目前の課題に取り組みつつも、その子どもの幸せな生涯を支援するという視点で取り組みたいと考えました。 また、行政の行う不特定多数への公平な施策では、どうしても取りこぼれてしまう者に対して、一人も見逃さないことを役割として活動することに心掛けています。</p>			
<p>● 団体の活動基盤</p>	<p>1. 人的資源：社会課題を解決するための知識又は能力、時間、資金を提供することを楽しみとし、自らは何も見返りを求めない「尽くして求めず」の人財が望ましい。 2. 物的資源：目的達成のための必要最小限の物があればよく、再利用など頂き物にご縁が続き最良と考えます。 3. 望ましい活動資金：補助金・助成金をもとに活動します。申請時に社会情勢を見直し、団体の現状認識を直し、もって一流の審査を受けることで、当団体の活動がブラッシュアップします。 4. 望ましい情報：Webに溢れる情報から正しいDataを仕分けるスキルが必要と考えます。そのために必要なことは、現場の当事者からの本音の声であり、そのために傾聴技術も鍛えています。</p>			
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>(1) 新城市、新城市教育委員会との協議（9月） 新城市子ども未来課及び新城市教育委員会学校教育課を訪問し本事業について説明し、貧困家庭の子どもへのアウトリーチ等について協力を得たとともに、後援事業として、応募のチラシに記載することの許可を得た。 (2) 学校を通じた募集（4月） 事前承認を得た後に年度明けを待ち、学校教師を通じて全児童生徒2,941人にチラシを配布し、全小学校13校及び全中学校6校の掲示板にポスターを掲示した。 (3) 応募状況 配布開始日:4/10、募集期限：5/20、応募者59名、11名受入。不登校対策の要望を受け予定より1名増員し11名で開始。 (4) 実施結果 出席率97%、遅刻0人、居眠り0人。サーティファイ・ジュニアプログラミング検定受験合格者数：4級11名中11名、3級11名中11名、2級10名中6名、1級9名中6名。 この間、保護者からの相談57件。</p>		<p>・事業1-①プログラミング教室への出席率70%以上の目標に対して、91%で達成。 ・事業1-②プログラミングの学習を1日60分を30時間の目標に対して、30時間受講で達成。非認知能力確認アンケートで全員向上。 ・事業2-①「ジュニアプログラミング」検定4級100%合格・3・2・1級も合格の目標に対して、4級全員、3級全員、2級6名、1級6名が合格。 ・事業2-②「ジュニアプログラミング」検定4～1級で60%以上で合格の目標に対して、4級100%、3級100%、2級55%、1級55%。非認知能力確認アンケートで全員向上。 ・事業3-①サロンプールの月～金夕方開放100%の目標に対して、100%開放した。 ・事業3-②いつでの予約なしに訪れることができるという目標に対して、メールでの相談57件、来訪者12名があった。 ・事業4-①連携団体へのヒアリング5回以上の目標に対して、民生・児童委員協議12回、新城市6回、社協10回、計28回。 ・事業4-②応募者全員が貧困家庭であることの目標に対して、無料であることが主要な応募理由と答えたアンケート結果は11名中10名。</p>		
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<p>(1) 貧困家庭へのアウトリーチ 実施前には貧困家庭の特定の方法として、児童扶養手当受給対象から行うことを考えていたが、新城市、新城市教育委員会、児童委員との協議を進めた結果、保護者の所得と子どもの貧困とは一致しないことがわかり、全児童生徒にチラシを配布し、その中に結果的に貧困家庭の子どもが含まれることでよしとした。 このことは、本プログラミング教室を受けた子どもが貧困家庭の子どもだという間違っただ偏見を生まないことに役立った。 (2) プログラミング検定学習の有効性 ゲルをプログラミングする内容で講座を行った結果、遅刻や居眠りなどが皆無で、一般の学習塾に比べて興味が最後まで持続した。公式検定の資格を取得したことは、中には家族中で赤飯でお祝いをした、合格バッチを付けて通学しているなど、変化が見られた。</p>		<p>(1) 地域の貧困を補うこと 当愛知県新城市は、消滅可能性都市と言われる過疎地であり、公共交通がなく、保護者の送迎なしには子どもが学習機会を得られないので、NPOの活動として無料送迎の学習支援が今後必要です。 (2) 子どもが目標とするようなカッコイ先輩と出会うこと 本地域には高等教育機関がないため、将来に夢見て活動するような学生と出会うことが少ないので、NPOの活動として、講習会場などでその機会をつくる必要があります。 (3) 支援慣れへの懸念 新城市の平均年収は、愛知県54市町村中52位で299万5,970円、愛知県の平均年収が519万2800円で新城市はその57%で平均的に相対的貧困にあるといえ、子どもは支援される貧困環境に慣れてしまいい貧困が連鎖を生むことが懸念されます。</p>		
<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>保護者・子どもの興味を引き、定員5倍超の応募の中参加した11名は、出席率91%、検定に100%合格し、ここを居場所とする仕掛けにより、自己肯定感、自己有用感の獲得</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>を達成しました。</p>	<p>・11名全員をプログラミング検定有資格者とすることができました。 ・11名全員が30時間のプログラミング講習を修了することができました。 ・11名全員が非認知能力チェックの結果で向上したことが確認できました。</p>